

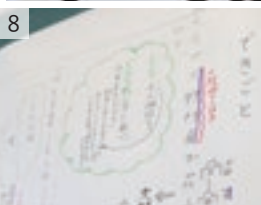
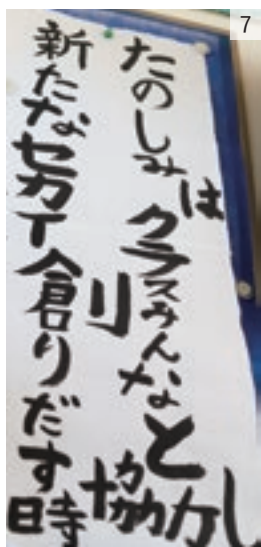


1\_城山天満神社神楽保存会による「大魔」の演舞／2\_5・6年生の劇の1コマ／3\_城山天満神社神楽保存会の皆さん／4\_6年生が切り合いの場面を体験／5\_1・2年生が役を演じる／6\_3・4年生は元気と笑顔溢れる劇を披露／7\_5・6年生の教室に掲げられた言葉／8\_上林の歴史が模造紙にまとめられた



# - スイッチとうおん特別版 - 伝統と新たなセカイ

上林小学校の学芸会で披露された里神楽。伝統を後世に引き継ぎたいと願った渾身の舞と小学生が披露した劇はともに上林への愛に溢れていた。



する思いの強さが表れている。教室には5・6年生が上林の歴史をまとめた模造紙が黒板に貼られ、机には愛媛の伝記など地域にまつわる本が積まれていた。劇中は、花山城、仙人塚、ほろせ岩など上林で語り継がれていたものが登場する。「上林の人たちから支えてもらいながら勉強や運動をしています。私たちの演技で皆さんの気持ちを温かくしたい」と劇に思いを込めた。

## 劇

終了後、熊田堅校長先生は、「他の学校に比べてもみんなの表現

力は負けない。城山天満神社神楽保存会の皆さんの演舞に上林の地域の素晴らしさを改めて実感した」と話した。

**5** ・6年生の教室に「たのしみはクマさんなど協力した新しいセカイを創りだす時」と言葉が掲げられている。上林の歴史や知識を学びながら、新たに自分たちなりに表現する姿は逞しい。今後も地域の光になりそれぞれの個性を活かしながら、新たなセカイを創り出す未来に期待したい。

## 例

年6月の第2日曜日、城山天満神社の夏祭りで餅まき、子ども相撲などの中で神楽の奉納があったが、近年は開催が見送られている。城山天満神社神楽保存会総代長の森光夫さんは「6演目ある神楽のうち、今回披露した『大魔』の演目は悪役の大魔と国を守る四天との切り合いの場面は迫力があり、見ごたえがあります」と話す。大魔が邪気の舞をする場面で大魔が笛を小学生や保護者に渡すやりとりもあった。6年生は大魔と四天が切り合いする場面を体験。体験した6年生は「木刀を手に

## 今

年の学芸会の劇は、どの学年も上林にまつわる話が物語に登場した。1・2年生の劇は、上林に昔から伝わる話「しんきよさんのおにたいじ」を劇にした。3・4年生は、上林のお祭りを物語の中に取り入れた。5・6年生の劇「上林たぶんこうだったんじやないか劇場」は、これまで調べ学習で学んだ上林の歴史を取り入れた作品。5・6年生なりに上林の歴史から想像しつつ、ユーモアを交えて創作した作品は上林に対

## 上

林小学校での学芸会。毎年1・2年生、3・4年生、5・6年生がそれぞれ劇を披露する。今年一際目立ったのが、城山天満神社神楽保存会の皆さんの里神楽。里神楽は、民間で演じられる神楽。市内で一度衰退していたが、城山天満神社神楽保存会の発足をきっかけに牛淵や下林でも保存会が発足し、今日まで続いている。

したことがなかったのでもいい経験になった」「初めて神楽を見た。体験すると、想像以上に木刀が重かった」「迫力があって」と貴重な経験に目を輝かせた。「先人が伝承してきたことを絶やさないうようにしたい。後継者不足で私たちが継承するには時間が限られている。『昔は小学校でこんなことしてたな』と記憶をたどって上林に戻ったときに神楽をやってみようと思ってくれたら」と上林の子どもたちに望みを託した。